

# 学校部活動の地域連携・地域移行に向けた指導者確保に係る調査委託

令和6年1月 生活文化スポーツ局

## 背景及び調査目的

中学校等における部活動は、スポーツ・文化芸術に親しむ機会であり、これまで自主的な参加による活動を通じて、達成感の獲得、学習意欲の向上、責任感、連帯感の育成に寄与するものとして大きな役割を担ってきた。

しかし、部活動を巡る状況は、近年、少子化が深刻化する中、持続可能性という面での課題や、競技経験のない教員が指導せざるを得ない点、休日の指導や大会への引率など、教員にとって負担が大きくなっていることも指摘されている。

こうした状況を踏まえ、東京都では、都内の公立中学校等の休日における部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行が推進されるよう、「学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画」を作成し、取組を進めている。

上記を踏まえ、本業務は以下の調査により、部活動の地域連携・地域移行を推進するための参考情報を収集することを目的に実施した。

# 1.調査概要

---

## (1) Webアンケート調査

---

### ■ 調査対象

以下の①～③の条件にすべて当てはまる方 10,000人

- ①東京都内に居住している18歳以上
- ②「スポーツ歴」がある
- ③現在、スポーツに関心があり、スポーツをしている（指導を含む）もしくは、関心があるが現在スポーツをしていない（スポーツに関心がない人を除外）

### ■ 調査方法

インターネットアンケート調査

#### ①スクリーニング調査

上記調査対象者条件に合致する人を抽出するための予備調査を実施

#### ②本調査

スクリーニング調査によって抽出された調査対象者に対して本調査を実施

### ■ 調査実施時期

令和5年12月8日（金）～令和5年12月18日（月）

# 1.調査概要

## (2) ヒアリング調査

### ■調査対象

都内に以下のスポーツチームを有する企業・団体 (9団体)

種目	
バレーボール	陸上
卓球	サッカー
テニス	バスケットボール
バトミントン	野球

### ■調査方法

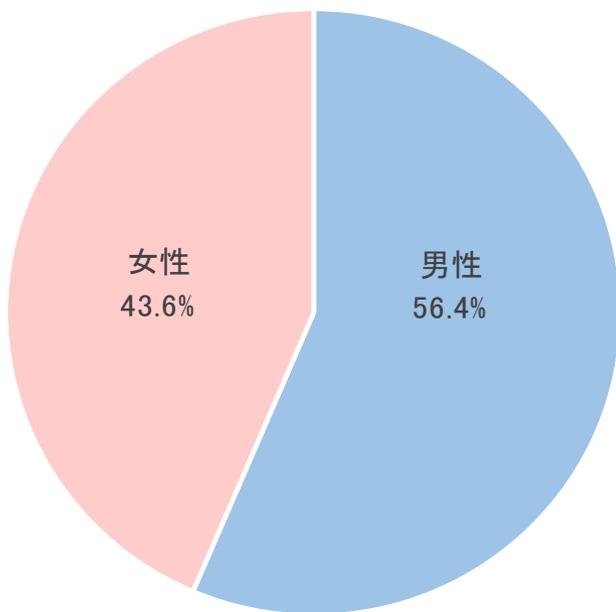
ヒアリング調査 (対面ヒアリングもしくはオンラインによるヒアリング)

### ■調査実施時期

令和5年12月14日 (木) ~令和6年1月11日 (木)

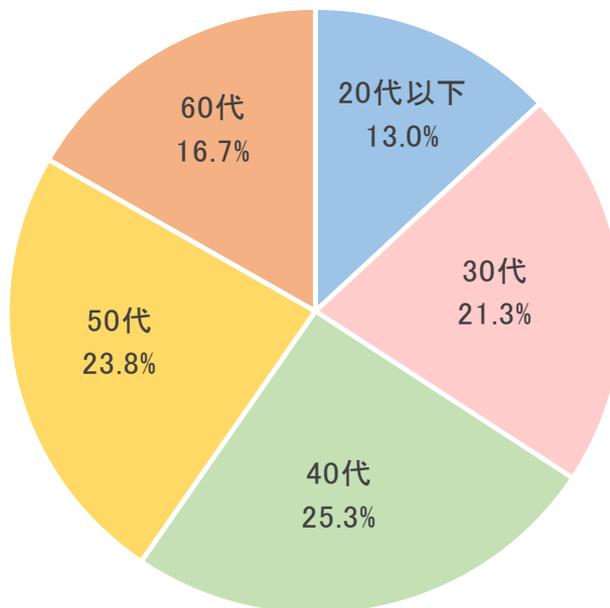
## 2.回答者属性 (Webアンケート)

### 性別



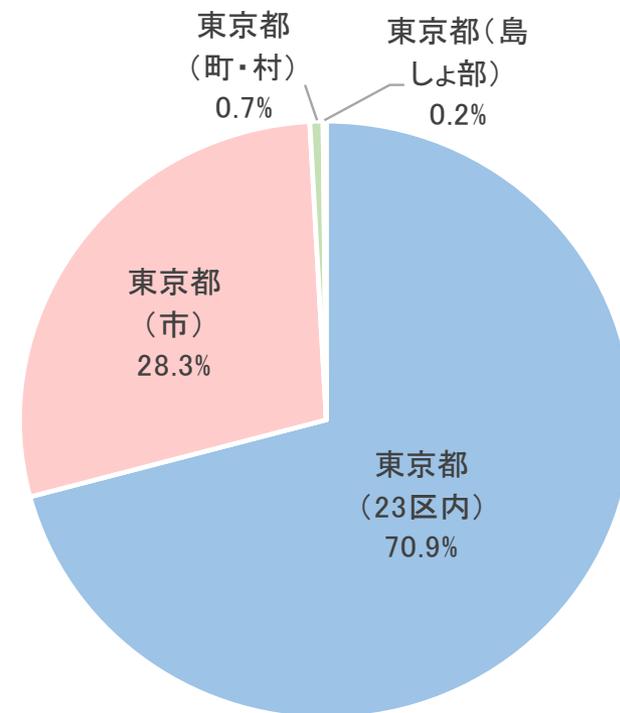
	n	%
男性	5,642	56.4
女性	4,358	43.6
全体	10,000	100.0

### 年代



	n	%
20代以下	1,301	13.0
30代	2,125	21.3
40代	2,531	25.3
50代	2,375	23.8
60代	1,668	16.7
全体	10,000	100.0

### 居住地



	n	%
東京都(23区内)	7,085	70.9
東京都(市)	2,829	28.3
東京都(町・村)	69	0.7
東京都(島しょ部)	17	0.2
全体	10,000	100.0

### 3.調査結果まとめ（Webアンケート）

#### （1）団体には所属していないものの、学校部活動の指導者等として活動を希望する層がどの程度いるか

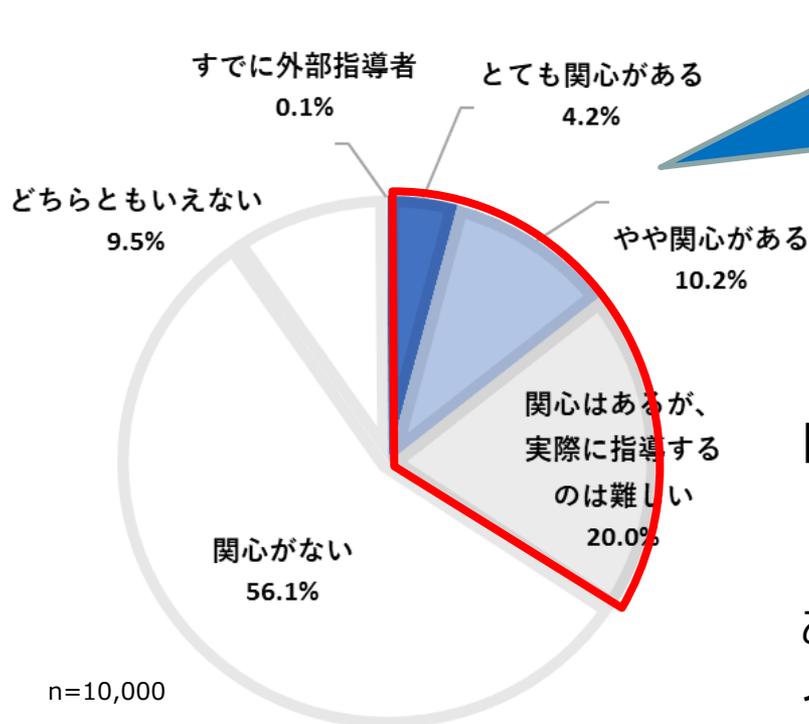
都内居住者（18歳以上）のうち、

スポーツ歴があり、現在もスポーツに関心があり、スポーツをしている（指導を含む）

スポーツ歴があり、現在もスポーツに関心があるが、現在スポーツをしていない



#### 部活動（都内公立中学校）の外部指導者になってみたいと思うか？



**関心あり 34%**

とても関心あり 4%

やや関心あり 10%

関心はあるが、実際には難しい 20%

部活動（都内公立中学校）の外部指導者の関心度は合計34%となっている。

TOP2 BOXの関心度は14%。

ただし、「実際の指導」を想定した場合、関心があっても、仕事や家庭との関係（指導時間）、指導ノウハウ、事故等への対応など考慮すべき点がある。

### 3.調査結果まとめ（Webアンケート）

#### （2）属性傾向

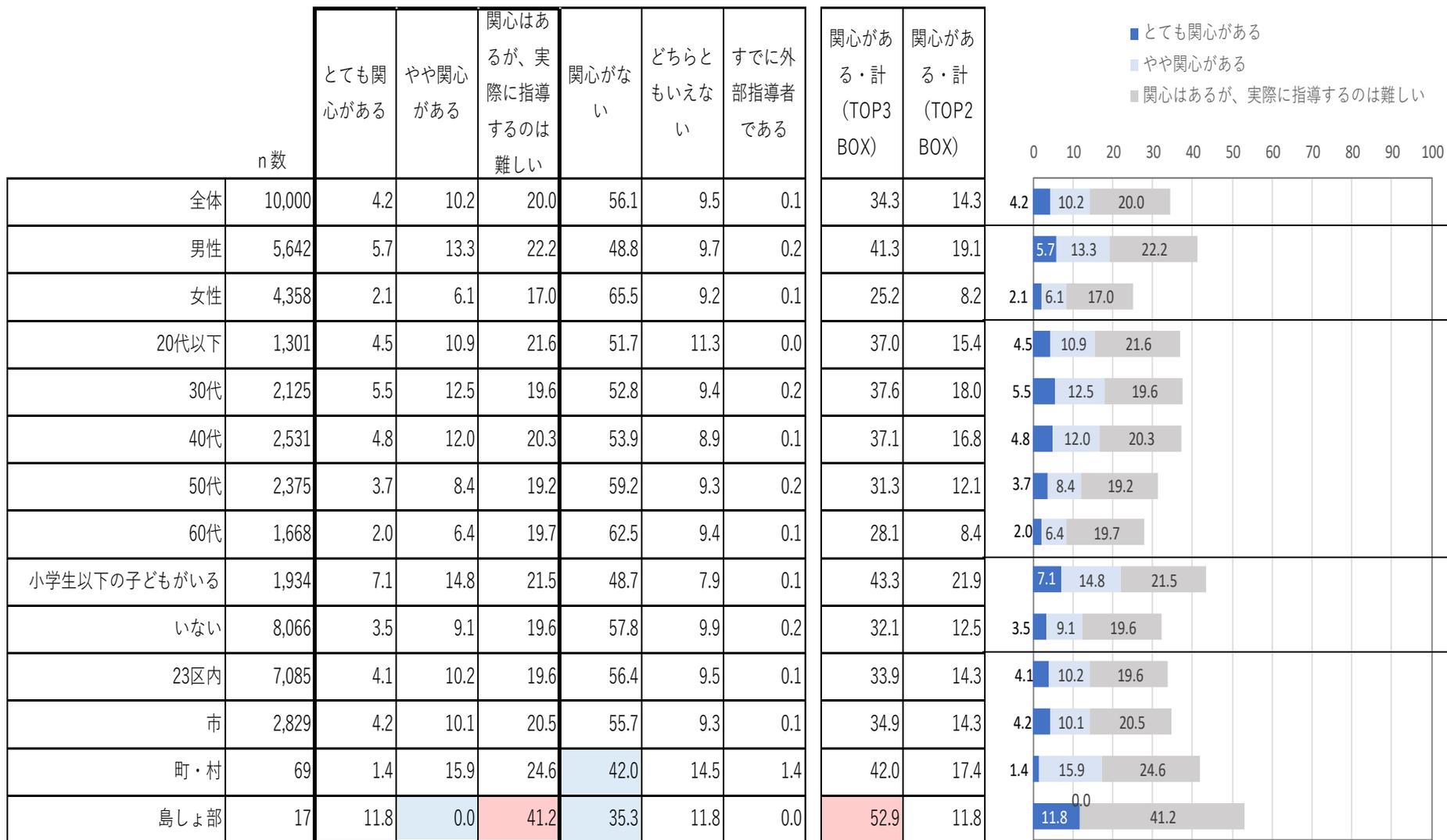
スポーツ歴があり、現在もスポーツに関心がある人の、外部指導者に対する関心度の傾向は、以下のとおり。

- 【性別】** 男性の方が関心度が高い（男性41%、女性25%）
- 【年齢】** 20代～40代の関心度が50代～60代の人と比較してやや高い傾向  
（20代37%、30代38%、40代37%、50代31%、60代28%）
- 【子どもの有無】** ・小学生以下の子どもがいる人の方が外部指導者への関心度は高い  
（小学生以下の子どもがいる43%、いない32%）

### 3.調査結果まとめ（Webアンケート）

#### （2）属性傾向

外部指導者に対する関心度を表にまとめると、以下のとおり。

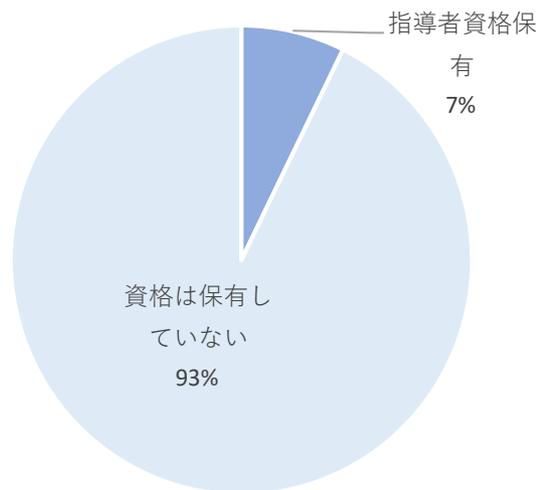


### 3.調査結果まとめ（Webアンケート）

#### （3）指導能力①

#### 外部指導者に対する関心度

##### ■ 有資格者の割合



- 「日本スポーツ協会公認資格を保有」が3%、「その他の団体の資格を保有」が5%、いずれかの資格を保有している人は7%。

※現在指導している人の資格保有者の割合は66%

※大学体育会もしくは実業団・プロまでの経歴がある人の資格保有者の割合は21%

- 部活動の外部指導者への関心度は有資格者の方が高い（関心がある・計（TOP3 BOX）は、有資格者が70%、資格を保有していない人が32%）

指導対象者が中学生とは限らないが、そもそも“指導”することを目的に指導者資格を取得していることが要因として考えられる。

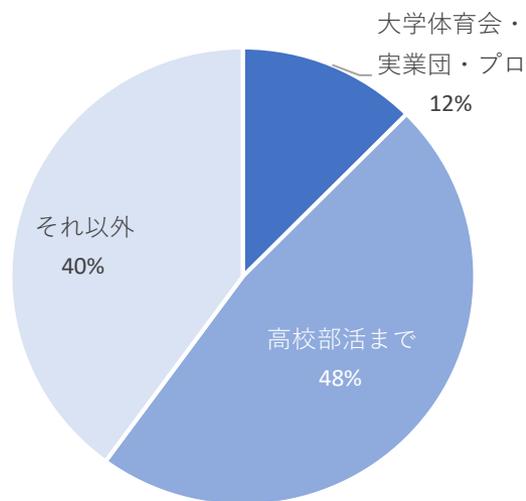
- 大学体育会もしくは実業団・プロまでのスポーツ経歴がある人の資格保有者の割合が高い
- 有資格者は、指導者に関心を持つ人の割合が高い

## 3.調査結果まとめ（Webアンケート）

### （3）指導能力①

#### 外部指導者に対する関心度

##### ■スポーツ歴



● 大学体育会・実業団・プロのスポーツ歴がある人は全体の12%

その内、外部指導者への関心がある人は**TOP3 BOXで55%、TOP2 BOXで29%**を占めている。

高校部活までの関心がある人はTOP3 BOXで37%、TOP2 BOXで15%を占めている。

それ以外の方の関心がある人はTOP3 BOXで25%、TOP2 BOXで9%を占めている

● **スポーツ歴が高い人ほど、指導者に関心を持つ傾向がある**

### 3.調査結果まとめ（Webアンケート）

#### （3）指導能力①

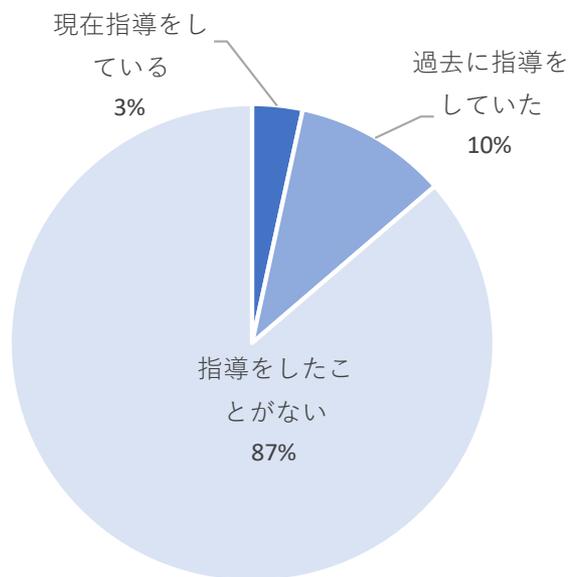
外部指導者に対する関心度を指導能力別に表にまとめると、以下のとおり。



### 3.調査結果まとめ（Webアンケート）

#### （3）指導能力②

##### ■スポーツ指導経験



●「現在指導している」が3%、「過去に指導をしていた」が10%、**合計14%が指導経験あり**

●指導経験がある人の内、指導対象者が中学生の人の割合は37%

※指導経験がある人の割合

- ・男性→18%
- ・女性→8%
- ・小学生以下の子どもがいる人→17%、
- ・小学生以下の子どもがいない人→13%
- ・指導者資格を保有している人 → **74%**
- ・大学体育会・実業団・プロ経験者 → **34%**

●指導者資格を保有している人や大学体育会・実業団・プロ経験者のスポーツ歴がある人の、スポーツ指導経験者の割合が高い

### 3.調査結果まとめ（Webアンケート）

#### （3）指導能力②

##### ■指導経験年数

「1年未満」が12%、「1年～3年未満」が40%、「3年～10年未満」が31%、「10年以上」が17%

##### ■指導のきっかけ

	全体	大学体育会・ 実業団・プロ経験者
「自身の経験や知識・技術を活かしたいから」	(41%)	<b>(49%)</b>
「知人等からの依頼・紹介されたため」	(31%)	(31%)
「社会貢献のため」	(28%)	(32%)
「職業・アルバイトとして」	(27%)	(31%)
「競技の普及のため」	(22%)	<b>(30%)</b>

- スポーツ歴が高い人の指導のきっかけは、
  - ・自身の経験や知識・技術を活かしたい
  - ・競技普及のためなどの割合が他と比較して高い。

### 3.調査結果まとめ（Webアンケート）

#### （4）指導者になることを検討した際に懸案と考える事項①

##### ■ 指導経験

##### ◎ 過去に指導をしていたが、現在指導をしていない理由

- ・仕事が忙しい (44%)
- ・年齢・体力・健康面の問題 (24%)
- ・家事・子育てなど家庭のことで忙しい (18%)
- ・趣味など他にやりたいことがある (17%)
- ・自分の子どもがチームを卒団・退団した (13%)

##### ◎ 指導したことがない理由

- ・指導できるレベルではない、自信がない、ノウハウがない (58%)
- ・仕事が忙しい (27%)
- ・趣味など他にやりたいことがある (20%)

●『過去に指導していたが現在指導をしていない理由』、『関心はあるが、実際に指導するのは難しい理由』の2項目で共通して、「仕事が忙しい」ことが上位となっている。

### 3.調査結果まとめ（Webアンケート）

#### （4）指導者になることを検討した際に懸案と考える事項①

##### ■部活動（都内公立中学校）の外部指導者への関心度

###### ◎「関心はあるが、実際に指導するのは難しい」の回答理由

- ・指導できるレベルではない、自信がない、ノウハウがない（48%）
- ・仕事が忙しい（42%）
- ・年齢・体力・健康面の問題（27%）

###### ◎「関心がない」と回答した理由

- ・指導できるレベルではない、自信がない、ノウハウがない（58%）
- ・仕事が忙しい（29%）
- ・趣味など他にやりたいことがある（23%）
- ・年齢・体力・健康面の問題（22%）

●『関心はあるが、実際に指導するのは難しい理由』は、「指導できるレベルではない、自信がない、ノウハウがない」が最も高い。

### 3.調査結果まとめ（Webアンケート）

#### （4）指導者になることを検討した際に懸案と考える事項②

##### ■指導者に関心がない人が検討するための条件

- ・条件の問題ではない (62%)
- ・お手伝い・サポートであれば  
（1人で指導等は不安・責任が重い） (16%)
- ・一定の報酬が得られるのであれば (16%)
- ・都合のつくときだけの指導であれば (14%)
- ・指導方法などについて研修等があれば (10%)

##### ■部活動（都内公立中学校）の外部指導者になる場合、希望報酬額（1時間当たり）

- ・「わからない」（28%）、「1,000円以上1,500円未満」（15%）、「1,500円以上2,000円未満」（14%）、「3,000円以上」（11%）、「2,000円以上2,500円未満」（9%）、「報酬は求めない」（9%）と分散。
- ・「報酬を求めない」、「2,000円未満」、「交通費など必要経費だけでよい」の合計値は47.8%を占めている。

### 3.調査結果まとめ（Webアンケート）

#### （4）指導者になることを検討した際に懸案と考える事項③

##### ■ 外部指導者になると仮定した場合、指導できる頻度

	n 数	平日		
		月4回以上	月1～2回	月1回未満・ わからない・ 指導不可
全体	6,266	23.1	27.4	49.5
とても関心がある	398	54.5	25.1	20.4
やや関心がある	958	39.8	32.6	27.7
関心はあるが指導は難しい	1,635	22.9	32.5	44.6

	n 数	休日		
		月4回以上	月1～2回	月1回未満・ わからない・ 指導不可
全体	6,266	18.6	43.5	37.9
とても関心がある	398	51.5	34.4	14.1
やや関心がある	958	34.2	52.2	13.6
関心はあるが指導は難しい	1,635	19.3	50.8	29.9

##### ■ 外部指導者になると仮定した場合、指導できる時間帯

	n 数	平日		
		午前	午後	夜間
全体	3,464	26.1	46.6	56.1
とても関心がある	330	33.3	51.2	65.8
やや関心がある	725	25.2	50.1	60.3
関心はあるが指導は難しい	986	23.9	48.1	52.4

	n 数	休日		
		午前	午後	夜間
全体	4,184	69.8	66.1	28.1
とても関心がある	351	77.2	75.8	41.6
やや関心がある	858	74.0	70.9	31.5
関心はあるが指導は難しい	1,215	69.2	65.4	25.7

## 4.調査結果まとめ（ヒアリング調査）

スポーツチームを有する企業・団体が、学校部活動の休日等の運営への参画について

### ■ 学校部活動の休日等の運営への参画意向

●ヒアリング調査を実施した実業団（5チーム）、プロ（4チーム）すべてが、学校部活動の休日等の運営への参画の可能性について否定的な見解を示している。

### ■ 参画する上での課題

●実業団チームの多くは、現役選手、コーチ、ともに、仕事とスポーツ活動（練習・試合）を両立している。 ※実業団5チーム中、スポーツ活動のみは1件

●プロチームは「結果」に対してより強い責任が伴っており、休日の過ごし方等を含めて、競技に専念している。 ※プロ4チームすべてにおいて、選手は「個人事業主」であり、スポーツ指導は契約外の業務となる

●スケジュールの課題も以下のとおりある。

<平日> 部活動を実施すると想定される「夕方前後」は、勤務時間や、勤務終了後の練習時間と重なる

<休日> 時期によって練習・大会と重なり、コンディションを整える意味でも休息时间として必要

## 4.調査結果まとめ（ヒアリング調査）

スポーツチームを有する企業・団体が、学校部活動の休日等の運営への参画について

### ■参画する上での課題

- 学校部活動への参画について、以下のような意見があった。
  - ・引退した選手も社員として従事しており、勤務時間の関係から平日の対応は難しい。  
※実業団5チーム中5件
  - ・休日の活動は、個人の判断。
  - ・休日の指導は、家庭の事情等で参画が難しい人が多い。
  - ・定期的に休日に部活動の指導を行うことは、プライベートの時間を犠牲にする必要がある。
  - ・陸上現役監督・コーチが地域で指導する事例もあるが、プライベートの時間を充当している。

→ **指導する時間がないため、“定期的”に部活動の運営に参画することは困難**である  
(部活動＝定期的な指導であり、時間の確保や選手個々のコンディションなどの側面から難しい)

→ オフシーズン、年数回など、**スポットで指導することは可能**

※9件すべての団体で、これまでにスポットでの指導実績あり

- 定期的な指導として関与するためには、実業団の場合、部活動指導を会社の業務として認める必要があるとの意見がある
- チームの練習に中学生が参加し“一緒に指導を受ける”方法についても、選手、コーチともに競技に真剣に取り組んでいるため、難しい
- 練習場所の確保に苦労しているチーム（9件中3件）があり、練習場所を提供する代わりに、選手を指導するケースがある。**“場所の提供”と“指導”をトレードオフにした仕組みによって、参画推進の可能性**がある。

## 4.調査結果まとめ（ヒアリング調査）

### スクール・下部組織の運営状況

- プロチームは、スクールや下部組織を運営しており、専任のコーチを雇用している。

※4チーム中4件

- スクールの受講費は1人6,000円～10,000円／月であるが、いずれも収益事業にはなっておらず、競技振興・社会貢献活動として位置付けられている。 ※4チーム中4件

- スクール・下部組織のコーチが指導することは難しい。大きな阻害要因として、スクールの開催日時と部活動の活動日時が重複するため。

- 中学校の部活動に対して、業務としてスクールのコーチを派遣することが可能ではという意見もあったが、人件費に見合う報酬が必要となる。

（以前、企業が自治体から相談を受けた際に、費用負担の問題で実現しなかったケースがあったとのこと。企業の場合、人件費には給与の他、保険・年金や管理コストなどが含まれるため、単純に支払額＝コーチの収入ともならないことが想定され、条件面で大きな乖離があったものと推測される）